●令和４年度一般会計補正予算

土佐くろしお鉄道修繕費に補助

■新型コロナ感染症対応土佐くろしお鉄道運行補助金　７５１万円

コロナ感染の拡大による移動の自粛で運輸収入が減少して、厳しい経営状況が続いている土佐くろしお鉄道に対し、同鉄道は沿線住民の移動手段などで必要不可欠であり、安全な運行の確保が必要とのことで修繕費への補助を行うもの。

これについては、全体の修繕額９９３２万円の内の１／２が県、残りの１／２を沿線７市町村が設定した負担割りにより負担するもの。

Q 今回の補助は、毎年の基金による補助とは別物か。

A 土佐くろしお鉄道に対しては、以前から基金による補助をしているが、近年、コロナの影響もあり基金が少なくなって来ている。また、同鉄道は、利用者もコロナの影響で相当減っており、計画していた事業も行えないなど、経営的に大きなダメージを受けている。

そういった中でも、修繕については、安全確保の観点から不可欠な支出なので、今回、基金による支援とは別の形での支援をするもの。

地域住民の移動に必要不可欠な土佐くろしお鉄道
（令和４年９月中旬、土佐入野駅）

自治体システム標準化・共通化へ

■自治体システム標準化及び共通化調査委託料　１２３万円

２０２５年度に開始予定の自治体システムの標準化及び共通化に向けて、標準仕様の固まりを受けて、その調査と解析を委託するもの。

Q 標準化及び共通化の内容は。

A 自治体システムについては、現状、それぞれの市町村が異なるシステムで運用しているため、国の方針で２０２５年度からそれらを統一し、標準化及び共通化を図るもの。

役場内の作業風景の一例。日々、種々の自治体システムによる行政運営が

電気料高騰で大幅な追加が

■小学校費　８６５万円
小学校関連の電気料。

■中学校費　４６３万円
中学校関連の電気料。

■社会教育費　２３４万円
あかつき館の電気料。

前記３件は、今年度の電気料の高騰を受けて追加補正するもの。

●馬荷辺地に係る総合整備計画の変更

湯屋橋補修工事を計画に追加

昨年度策定した馬荷辺地総合整備計画へ、当該地区内の湯屋橋の老朽化による長寿命化の補修工事を追加する計画変更。

Q 湯屋橋の場所は。

A 馬荷温泉の自動販売機のすぐそばの橋。

なお、辺地の要件は、当該地区の中心を含む５平方キロメートルの範囲内に50人以上が居住。

加えて、役場や駅などからの距離などの判定項目による辺地度点数が１００点以上であることで現状、当町での該当は、馬荷地区と熊野浦地区、鈴地区の３カ所。

また、辺地債は起債充当率が１００％、交付税参入率が80％。ちなみに、過疎債は、充当率が１００％、交付税参入率が70％なので、辺地債がより有利とのこと。

町道湯屋線に架かる湯屋橋。左側の白い看板横に馬荷温泉の自動販売機が（令和４年９月中旬）